

Blauen Donau

Oh flow e'er in majesty Flow on to the sea Oh flow
on eternally Beautiful Blue Danube * Though we
know times Of worry and strife You give us pride
And you give us life Praise be the bounty you bring
Praises of thee we sing * So flow on through forest
and field Flow ever so free Oh flow like a fountain
of spring * Oh flow e'er in majesty Flow on to the
sea Oh flow on eternally Beautiful Blue Danube

emiko shiratori

白鳥英美子

川の流れるように
気ままな風のように
ある時は冷たく
ある時はやさしい雨音のように
何の気取りもなく
歌っていたい……………
自然の奏でる音楽は
案内状もないのに
いつでも私達に
すてきな音楽を聞かせてくれる
それをこばむものは誰もいない
むしろ
あまりにもあたりまえのことだから
気がつかないで
過ごしている人の方が
多いのかも知れない
けれど
風は吹き
雨は降り
木々は揺れ
鳥は唄う
ごく当り前のことが
忘れられがちな時代の中で
ごく自然に
誰かの耳に……………
心の中に……………
そっと浸み込むような
歌であることを
願いつつ……………

制作ノート

(ディレクター)田中 孝

'87年9月に発売した白鳥英美子久々のアルバム「アメイジング・グレイス」は表題曲に代表されるトラッド・ソングに加え、クラシック、ポップスと、白鳥英美子の美しい歌声を最大限に生かし切ることを狙いといた選曲と新しい解釈での編曲とで、大ヒット・アルバムとなりました。

そして翌'88年、ヒットの勢いをかって続編アルバムを作ろうということで企画されたのが、本アルバム「美しく青きドナウ」です。

前作同様、トラッド、クラシック、ポップスという3つのジャンルから美しいメロディを持った楽曲が選ばれてはいますが、12曲中6曲の録音会場がウィーン・コンツェルト・ハウス、共演がヨハン・シュトラウス・オーケストラと、全体的にはクラシックのイメージが強いアルバムになっています。

これは1枚めの「アメイジング・グレイス」の成功から、2枚めのアルバムはよりクラシック的なアプローチを強く打ち出そうという方針から実現しました。

長い歴史を持ったウィーン・コンツェルト・ハウスでの

レコーディングは、白鳥英美子の美しいヴォーカルをよりいっそう引き立たせる結果となり、又ヨハン・シュトラウス・オーケストラも絶妙の演奏を聴かせてくれています。

ゲストにチターの名手、カール・ヤンチェックも参加し、アルバムに色どりを添えております。

音楽の都ウィーンでのアルバム制作は、期待通りの好影響を与え、私達に美しいメロディ、そして美しい歌声が時代を越え国境を越え、あらゆる人々の心に感動を与えてくれることを再認識させてくれました。

さらに、パリ音楽院に学んだ加古隆が「ノスタルジー」で、情感のこもった作品を絶妙なピアノで参加しているのも注目していただきたいと思えます。

ヨーロッパの香り高いこのアルバムが、再び当社の開発した「スーパー・アナログ・ディスク」によって、DAMレコードのシリーズに加えさせていただけることを担当者として心から感謝しております。

録音考

(チーフ・エンジニア)齊藤正明

白鳥英美子の歌の心を、あなたのハートで直接感じて頂

きたい。

そして彼女の歌を支え、より魅力的に聞かせてくれるウィーンの響き。

その2つの響きがひとつとなってもし出すハーモニーの優しさ、艶やかさを素直にあなたにお届けしたい。

世の中は正にデジタル時代。音楽もサウンド重視の傾向が強くなり、スピーカーの前面から飛び出して来るような音・音・音……。

そんなデジタル・サウンド全盛の今、ややもすると忘れられがちなアコースティックな音楽の響きを、あえてアナログ録音ならではの音の艶と伸びやかさを生かしたキャラクターによって表現する。

歌声の、そして楽器の奏でる温かい響きが、奥行きのある空間となって聞く人のハートを震わせる。

このようなコンセプトで「美しく青きドナウ」のアルバムを仕上げてみたつもりである。

オリジナル・アナログ録音による白鳥英美子の初の「スーパー・アナログ・ディスク」は、そうした録音上の意図をより高い次元にまで磨き上げた音によって、皆さまに聴いていただけることを期待している。

制作にあたって

日頃は第一家庭電器をご愛顧いただき、誠にありがとうございます。

頒布会も今回で32回を迎えさせていただきました。その頒布会恒例の、DAMオーディオ・チェック・レコードは、スタート以来、クラシックから1作とその他のジャンルからもう1作と、計2作を毎回制作してまいりましたが、今回は、諸般の事情により、突然クラシックのみとなってしまったことを、深くお詫び申し上げます。

毎回、この「制作にあたって」で、国内のアナログ・レコードの発売状況等をお伝えしてまいりましたが、この春、遂に国内のレコード会社の大半が自社工場でのアナログ・レコードの製造を打ち切り、残された数社に、アナログ・レコードを委託して生産してもらうこととなってしまったのです。

これは、CDシングルの発売と、CDラジカセの急速な伸びで、CDソフトの増産が至上命令となったレコード各社が、アナログ・レコード生産ラインをCDのそれに切替えたためではないかと考えられます。

CDが全ての面で、アナログ・レコードに

勝っているのであれば、それは当然の結果でしょう。しかし、現時点で、アコースティックな楽器や人間の声に関する限り、その音楽の持つ自然さは、良く作られたアナログ・レコードの方がCDよりすぐれていると思えます。

この点について、色々な雑誌等でようやく堂々と論議されるようになりましたが、しかしすでに遅いようです。

レコード各社は、ベスト・ヒットが予想されるアーティストに限って、わずかながら、アナログ・レコードを発売していますが、これは、CDプレーヤーをまだ所有していないファンのためであって、残念ながらアナログ・レコードの優位を認めてのことではありません。

そこでDAMとしては、本当のアナログの良さを認めていらっしゃる会員の方のお気持ちを、少しでも癒していただくため、キングレコード株の協力を得て、DAM・キング・スーパー・アナログ・ディスク「白鳥英美子●美しく青きドナウ」を企画いたしました。

特に今回のスーパー・アナログ・ディスクでは単なるアイドルとか、人気という点からではなく、このシリーズにふさわしい音楽を選んでみました。

白鳥さんは、トワ・エ・モア時代から心が安らぐ暖かい声で多くのファンを魅了してきましたが、'82年よりソロ活動を開始、'87年キングレコードに移籍、増々そのヴォーカルに磨きがかかっています。電気楽器全盛の今日、白鳥さんは、アコースティックな響きを大事にするため、大ホールのPAの音を避けて、本来クラシック専門の小ホールであるカザルス・ホールで、コンサートを開くなど、大変貴重な存在です。

移籍第1作の「アメイジング・グレイス」のヒットに続き、ウィーンでの録音を主体とした。第2作「美しく青きドナウ」、そして最新作の「ブラン・ニュー・ワールド」も更にヒットを続けています。またTVCFにも取り上げられている曲も多いので、ご存知の方も多いかと思えます。

この第2作「美しく青きドナウ」は、ヨハン・シュトラウス・オーケストラを起用してのウィーン録音と、一部国内録音も、全てアナログ録音であるため、今まで国内アーティストが登場したことのない、キングのザ・スーパー・アナログ・ディスクに、思いきってDAM特別バージョンとして取り上げた次第です。

勿論、ポピュラー音楽なので、録音の時に

イコライズやエコー、etc. の特異な処理がされていますので、純粋なクラシック録音とは、趣が異なりますが、スーパー・アナログ・ディスク化により、彼女のヴォーカルが大変ナチュラルに、また暖かみを増したことが印象的です。

なお、本アルバム制作にあたり、キングレコード(株)の高和元彦プロデューサー、牧野晃チーフ・エンジニア、並びに関係者各位に多大なご協力をいただきましたことを厚くお礼申し上げます。

DAMといたしましては、今後とも最善の努力をしてお応えし、スーパー・アナログ・ディスクを制作する所存ですので、会員の皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

DAM推進委員会 **DAMPC**

THE SUPER ANALOGUE DISC

スーパー・アナログ・ディスクについて

●制作意図

すべてアナログ録音のマスター・テープを使用している〈スーパー・アナログ・ディスク〉は、アナログの持つ独自の魅力を可能な限り追求した特別製のハイ・クォリティー・ディスクです。

レコードの主流はコンパクト・ディスクに移り、そのCDにもいくつかの長所があることはご存知の通りです。

しかし、長年にわたり多くのノウ・ハウを蓄積してきたアナログ・ディスク(AD)には、先端技術の産物CDでも得られない、物理特性を越えた音楽の世界が存在していることは既成の事実です。私たちはそのアナログ・オーディオのソフト技術をさらに深く研究・開発し、音を磨きつづけております。

〈スーパー・アナログ・ディスク〉は、すでに国内はもとより、広く欧米にも知られるところとなり、高い評価が与えられております。

音楽とオーディオを本当の意味で理解し愛する皆様に聴いていただくことを目標に、〈スーパー・アナログ・ディスク〉は制作されております。

●〈スーパー・アナログ・ディスク〉の どこがすぐれているか

①**周波数帯域**：このために使われたカットティング・システムは10Hzから50kHzの非常に広い帯域をもってあります。したがって、ここに選ばれたマスター・テープの持つ帯域は最大限に収められています。

その充実した重低音から、豊かな倍音を含む超高域までが再現されております。

②**トランジェント特性**：音の明快な立上りからは、瞬発力とスピード感のある迫力が得られ、また卓越した解像度が生み出されています。

③**ダイナミック・レンジ**：技術的にはノイズ・レベルから最大レベルまでの広さを指しますが、ここでは音楽上のピアノシモからフォルティシモまでの聴感上のエネルギー感(ダイナミクス)の幅の広さをより大切にしました。たとえばフォルティシモではアナログ独特の緊張度の高い音量感が聴かれます。

④**低歪率**：清澄な透明感と混濁のない音質は、解像度をよくし、いくらボリュームを上げて再生しても決して耳ざわりな音にはならないはずで。

⑤**情報密度**：アナログ独特のなめらかな音質により、楽器や声のもつキメ細かい粒子や肌ざわりが得られ、AD本来の人間性に基いた持味を十分に再現しております。そこから

導かれる演奏家の微妙な表情の変化や音楽に求める深い感動は、ハード優先の“オーディオ的快感”とは本質的に異なるものです。

●〈スーパー・アナログ・ディスク〉の 制作工程

①**ダイレクト・コネクティング**：再生用テープレコーダーのヘッド・アンプから、カットティング用のパワー・アンプまでをダイレクトに接続し、その間のたとえばグラフィック・イコライザー、フィルター、リミッターなどは一切介在させておりません(ブロック図参照)。その結果、マスター・テープの信号をフラットにカッター・ヘッドへ伝送することができ、音質劣化やトランジェント特性は著しく改善され、ナチュラルで鮮度の高い音が得られております。

そのため、テープに含まれている多少のヒスやハム・ノイズ、暗騒音(特に重低音域)、指揮者の足音などもそのまま記録されていることを予めおことわりしておきます(これは周波数帯域が広いためであり、また技術的にも一切修正していないからです)。

②**ハーフ・スピード・カットティング**：テープとカットティングの速度をそれぞれ $\frac{1}{2}$ に落としてゆっくり切込むことによって、音溝の精密度を高め、広大な周波数帯域によって情報量を最大に収録しています。

この技術は高度の熟練を要し、特に〈スー

パー・アナログ・ディスク〉では溝の幅も最大280から最小30ミクロンと広く深くカットティングされており、(通常は80~30ミクロン)、マキシマム・レベルがいかに高いかを証明しております。

③**管球式アンプ**：ハイ・パワー(実効出力、300W+300W)のカットティング・アンプと、ヘッド・アンプはすべて当社の技術陣が開発した特別製の管球式を採用しています。これにより、余裕のある容量と、アナログ・サウンドの豊かで温かな音楽性を十二分に伝えております。

④**超多重量盤**：約180grの重さをもってあります。これは通常レコードと比べてさらに60%以上の重さとなります。それによって、前述した深い音溝にも対応できるとともに、レコード演奏時の盤の共振を大幅に減少させます。特に大きな音量レベルのときや低音域を安定させるために大変効果があります。

⑤**高品質材料**：極めて慎重なメッキ工程による金属原盤の製造と相まって、厳選されたプレス原料と特殊な原料加工技術によって、ラッカー・マスターに収録された情報に非常に近い音質が得られ、SN比も改善されております。

このように〔スーパー・アナログ・ディスク〕は、通常のADとは別の製造ラインによる一種の「手作り」のレコードであります。

●再生上のご注意

①**カートリッジとプレーヤー・システム**：針先の摩耗やホコリの附着には特にご注意ください。できればレコード片面ごとに針先のクリーニングをおすすめします。

また、針圧は適性針圧が少し重くして下さい。

②**盤面のホコリ**：音溝が深いため、溝の底にホコリが入り込まないように方法で除去して下さい。かえってノイズが増えることがあります。

③**アンプ**：前におことわりしましたように、ヒスや低域等のノイズは、コントロール・アンプにおいて調整して下さい。また、メイン・アンプは出力の大きい余裕のあるものほどダイナミックな効果が発揮されます。

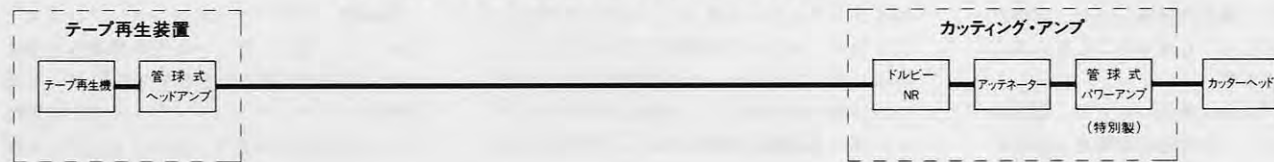
× × ×

ハイ・エンド・ユーザーを始め、ある程度のグレードの再生装置をお持ちのレコード・ファンの中に、CDの再生を体験された上でもなお、ADの音の魅力が再認識される傾向がみられます。そうした皆様に、アナログのすぐれたプログラム・ソースとしてこの〈スーパー・アナログ・ディスク〉を十二分にお楽しみいただけることを念願する次第です。

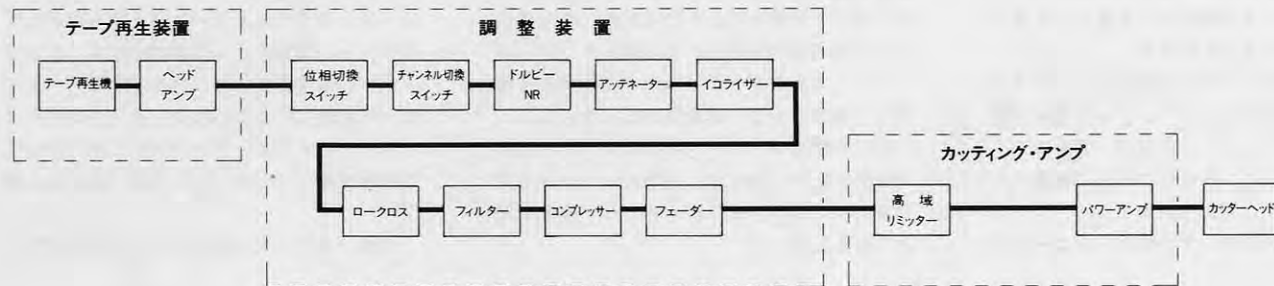
〔'89.10 高和元彦〕

ダイレクト・コネクティングのブロック図

〈スーパー・アナログ・ディスク用カットティング・システム〉



〈ノイマンVMSカットティング・システム〉(通常の例)



〈スーパー・アナログ・ディスク〉 キングレコード制作スタッフ

プロデューサー：高和元彦
スーパーヴァイザー：菊田俊雄
マスタリング・エンジニア：牧野 晃
アシスタント・エンジニア：
青木輝彦、西田尚雄
ディスク製造：日本ビクター株式会社